

ACTチーム紹介 05

KUINA

地域活動支援センターⅠ型/
障がい者支援施設/障がい者就業・生活支援センター

所在地 〒312-0004 茨城県ひたちなか市長砂1561-4
TEL:029-202-2221 / FAX:029-202-1666

訪問範囲 ひたちなか市・那珂市・大洗町・東海村の他に、事務所から車で片道30分以内



積極的地域生活支援

[地域コーディネーションモデル]

活動内容

法人全体でサービスを提供できる体制づくり

KUINAは福祉施設としての立場から、地域での生活と、利用者の方を取り巻く環境に積極的に関わり、24時間365日の生活を把握することに力を注いでいます。また、利用者の方と主治医との関係性を大切にし、主治医と協力しながら生活支援のなかで服薬管理や受診同行などを行っています。障がい者支援施設における訪問支援(自立訓練)や短期入所事業、地域活動支援センターⅠ型での相談支援事業、障がい者就業・生活支援センターでの就業支援など、一人ひとりの課題にあわせ、積極的に地域生活を支援しています。

voice

利用者の方の声

KUINAのスタッフさんは、いつでも来てくれるし電話相談にものってくれるから、調子が悪いときでも安心できるので助かっています。

(50代・男性)

voice

ご家族の方の声

母親や兄貴が心配ですが、仕事を休んでばかりはいられない。でも、KUINAのスタッフさんが毎日何回も様子や体調管理、家事など全てみてくれるので安心です。

(50代・男性)

16

ACTチーム紹介 06

ぴあクリニック

医療法人社団 互啓会 ぴあクリニック/
株式会社 ぽっけ 訪問看護ステーション不動産平

所在地 〒433-8108 静岡県浜松市北区根洗町537-2 / MAIL:peerclinic@kind.ocn.ne.jp
TEL:053-414-3355 / FAX:053-414-3356

訪問範囲 静岡県浜松市内全域

この拒絶 この撃退の積み重ね 役立つ時を信じ訪問

活動内容

地域でその人らしく生活を送れるよう支援しています

ぴあクリニックは、「どんな重度の精神障がいを抱える人であろうと、その人が地域でのびのび自由に生きていくことを可能な限り応援します」を理念とし、活動をしています。その活動の三本柱となっているのが、訪問・外来診療・日中活動スペースです。それぞれが機能することにより、治療的要素・コミュニティ形成・社会参加の支援を提供しています。

voice

利用者の方の声

ACTのスタッフさんが初めて来たのは3年前。訪問が嫌だった私に根気強く話しかけてくれました。今は回復し、大手スーパーの中のお店でウェイトレスとして働いています。何かあると仕事先にも訪問してくれるので安心して働けます。ACTは私に生活を取り戻させてくれました。

(50代・女性)



17

ACTチーム紹介 07

ACTおかやま

岡山県精神保健福祉センター



所在地 〒703-8278 岡山県岡山市中区古京町1-1-10-101

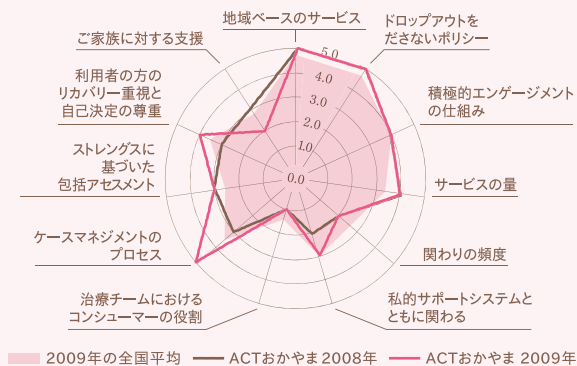
訪問範囲 岡山市を除く、岡山県内全域

生活を楽しむための自立を
ネットワークで支援したい

活動内容

保健所・市町村・社会資源との連携
ネットワークによる地域づくりを念頭に

新たな展開の時期を迎え、3つの課題があります。①「特に未治療・治療中断者を中心に訪問支援を行うこと」。統合失調症の方に限らず、市町村・保健所などが支援をしにくい方々も支援の対象にしてゆく方針です。②「自殺予防情報センターとの連携のもと、自殺ハイリスク群で受診を拒否している事例への多職種アウトリーチを行うこと」。③「地域の精神科病院を中心とした地域保健所・市町村・地域社会資源とのネットワーク型の訪問チーム形成の支援をすること」。民間のACT-Zero岡山(右頁参照)と協力しながら、上記の課題に積極的に取り組みます。



2009年の全国平均 ACTおかやま2008年 ACTおかやま2009年



voice

利用者の方の声

至れり尽くせりでよくしてもらっています。一緒に食事や買い物に行ってくれるのが、助かります。親身になってお世話をしてくださって、よかったです。
(50代・男性)

18

ACTチーム紹介 08

ACT-Zero岡山

大和診療所、訪問看護ステーション宙



所在地 MAIL: act-zokayama@rouge.plala.or.jp
FAX: 086-238-3366

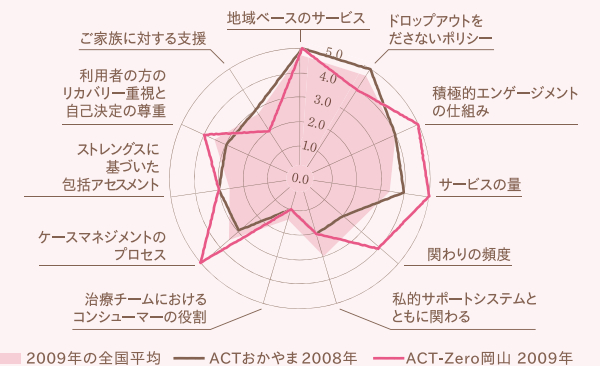
訪問範囲 岡山市中区の事務所から車で片道30分以内

ゼロからのスタートであり、
常にACTにおける
原点であり続けます

活動内容

利用者の方やご家族が自分らしい
人生を生きられるように

私たちは、地域や医療から孤立している重い精神障害を持つ方々が、人や医療と穏やかに出会えるように、新しい視点・発想・関わりでACTを実践します。入院になった場合でも、退院後の支援を見据えて、病院スタッフと連携しながら支援を継続し、最も安心できる場所(家庭)で落ち着いていただけるよう早期退院を実現します。また、行政機関でACTを実践していた経験と成果をもとに、岡山ならではの包括的地域支援システムの構築を目指しています。



2009年の全国平均 ACTおかやま2008年 ACT-Zero岡山2009年



voice

利用者の方の声

臨機応変な訪問で困っていることについて相談でき安心できます。子供と遊ぶ時間など、ホッとできる時間を一緒に過ごしてもらえることが嬉しい。
(30代・女性)

19

ACTチーム紹介 09

NACT

こころクリニックせいわ

訪問看護ステーション浜田「こころ」

所在地 〒697-0052 島根県浜田市田町52-7 / MAIL:oky-cocoro@beetle.ocn.ne.jp
TEL:0855-28-7350(または0855-28-7550) / FAX:0855-28-7351

訪問範囲 事務所から車で片道40分以内



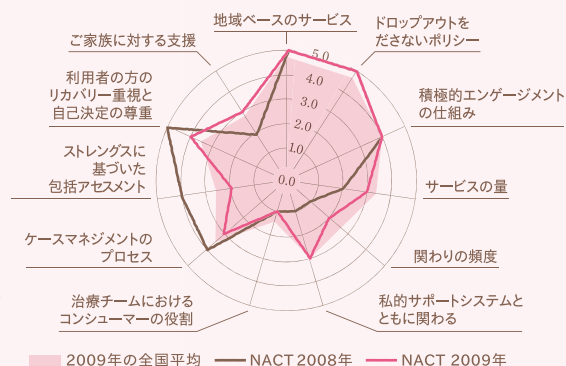
あなたと共に、
希望の花を咲かせたい
～ Make Your Dream ～

活動内容

外来診療機能をもつ在宅療養支援診療所
と訪問看護ステーションで行うACT

NACTはもともと島根県浜田市の西川病院のなかにオフィスがありましたが、平成21年11月より浜田駅前に、こころクリニックせいわと訪問看護ステーション浜田「こころ」を設け、地域社会に根ざしたACTへと一歩一歩発展しています。

「重い精神障がいを持つ人であっても、地域社会の中で自分らしい生活ができるよう、その人のあり方を中心に据えた支援をする、その人の長所・能力を伸ばすよう支援をする」を理念として掲げています。民間の精神科病院を母体として持ちながら、質の高いACTの実践をめざしチャレンジを続けています。



voice

利用者の方の声

今一番の楽しみは、ACTのスタッフさんが家に来てくれて、話をしながら楽しい時間を過ごすことです。 (50代・女性)

ACTのスタッフさんは、人には話せない自分の想いを語ることができる存在です。 (40代・男性)



20

ACTチーム紹介 10

ACT-U

(財)正光会 訪問看護ステーション

所在地 〒798-0027 愛媛県宇和島市柿原1280番地 / MAIL:actuujima@festa.ocn.ne.jp

訪問範囲 宇和島市内で、オフィスから車で片道1時間以内



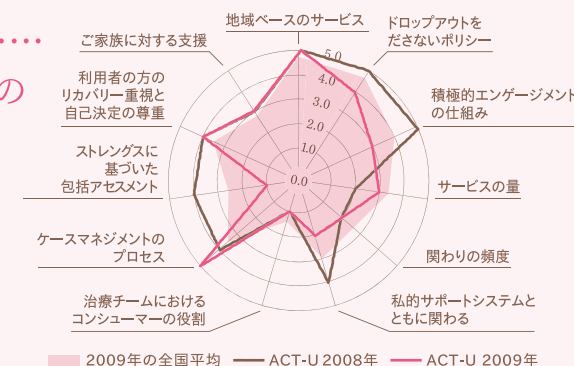
利用者のために……地域のために……
スタッフのために……宇和島地域の
笑顔といやしのオアシス

活動内容

その人の夢や希望を大切にした、
支援を提供します

私たちの活動の理念は、利用者の方が自分らしく地域で生活できるよう、支援を行うことです。現在はチームのサイズが小さくなり、これまで行えていた支援がなかなかできないという課題を抱えています。

しかし、利用者の方がもっている希望やその人の力などに着目し、地域生活を支えるというチームの理念は変わっていません。その人が地域生活をする上でできることを一緒に探しながら、活動をしています。



voice

利用者の方の声

昼間は寂しくないのですが、夕方からまた家で独りになるかと思うと、孤独と寂しさで耐え難くなります。そんな時にACTのスタッフさんが来てくれるので安心して休むことができます。 (50代・男性)



21

ACTチーム紹介 11

富山市民ACT

富山市立富山市民病院



所在地 〒939-8511 富山県富山市今泉北部町2番地1
TEL:076-422-1112 / FAX:076-422-1371

訪問範囲 富山市内で、病院から車で片道30分以内

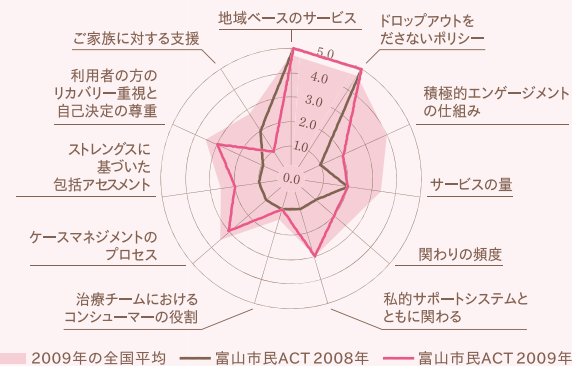
住み慣れた地域で
利用者の方とご家族をささえ、
暮らしを応援します

活動内容

精神科全体の連携による
地域生活支援を実施しています

富山市民ACTは、「住み慣れた地域でその人らしくあたりまえの生活が送れること」を支援の柱としています。外来、病棟、デイケアと富山市民病院精神科全体の連携により、途切れのないサービスを提供しています。

また、複数のスタッフによるていねいできめの細かい訪問活動を行っています。利用者の方一人ひとりの支援計画を大切にすることが、再入院の減少につながっています。



■ 2009年の全国平均 ■ ACT-G 2008年 ■ ACT-G 2009年



voice

利用者の方の声

私にとってのACTのスタッフさんは、生活面の良き助言者および相談相手でもあります。日常の出来事の会話を通して、病状を把握し助言してくれる大切な人々です。 (50代・男性)

22

ACTチーム紹介 12

ACT-G

医療法人社団和敬会 谷野呉山病院



所在地 〒930-0103 富山県富山市北代5200 / MAIL: act-g@wakeikai.com
TEL:076-434-8100 / FAX:076-434-8150

訪問範囲 富山市を中心に、谷野呉山病院の訪問看護実施地域

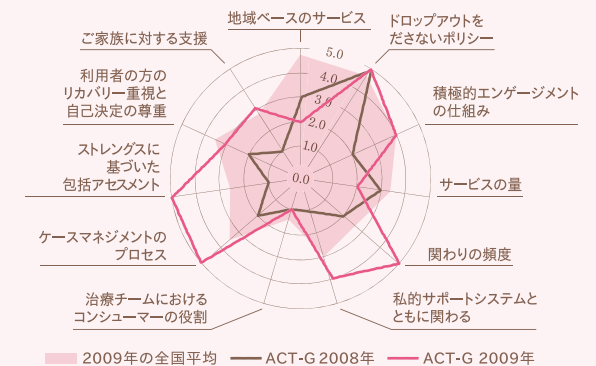
あなたの夢と希望の
応援団ACT-G

活動内容

利用者の方の希望を尊重した、
地域生活支援を行っています

ACT-Gは重い精神障害をもつ人が、質の高い安定した地域生活を送るために、あらゆる職種から構成されたチームで、24時間365日体制で危機的状況にも対応できるよう活動しています。利用者の方の可能性や希望を尊重し、時間をかけてかかわりながら、利用者の方の希望に基づいて作成した計画にそって、サービスを提供しています。

また、和敬会地域サポート情報共有システムを活用し、スタッフ間で情報共有を行い、利用者の方がいつでも・誰にでも安心して相談できる体制を整えています。



■ 2009年の全国平均 ■ ACT-G 2008年 ■ ACT-G 2009年



voice

利用者の方の声

眠れない時、ACTに電話すると、大丈夫と励ましてくれることが一番助かっている。訪問を希望したらいつでも来てくれることもうれしい。 (50代・男性)

23

新しくACTを 立ち上げたいときは？



ACTは、重い精神障害を持っている方の地域での生活をサポートするのにたいへん有効なプログラムですが、日本においては、制度上まだ認められていません。新しくACTを立ち上げる方は、“挑戦者”です。協力しあいながら、よいチームを作っていきましょう。

1. ACTチームの「現場」を見ること

ACTでは従来の長期入院や繰り返しの入院に代わって、重い精神障害を持っている人々を地域社会のなかで支えることができます。ACTのサポートを受けることによって利用者の方が生活力に自信を持つことができ、自分の持ち味を生かし、希望を持ちながら生きていくことが可能になるからです。

そのためには、ACTのスタッフが、利用者の方の力を信じ、彼らの生活が豊かになっていくことをともに喜び、また危機の時も粘り強く、ともにそれを乗り越えていく信念、そして技能を持っている必要があります。

そのような信念と技能を持ってACTを立ち上げ、運営していくための方法を学ぶには、先進的なACTチームを見学に行くことが役立ちます。多様な職種のスタッフで作るチームのありかた、チーム精神科医の役割、ミーティングの持ち方、記録の方法など、実際の現場を見ることで、理解することができます。また、経営上の工夫など、運営においての実質的な情報を学ぶことも大切です。



2. 地域社会の一員として活動すること

ACTは利用者の方に対して多彩な包括的なサポートを、責任を持って行うチームですが、ACTだけですべてのことができるわけではありません。

たとえば、住まいを見つけるためには、不動産屋さんと仲良くすることが必要です。日中の居場所確保には、地域の福祉サービス提供者とのネットワークも重要でしょう。それに、安く買い物や食事ができる場所の情報なども大切ですし、ハローワークや保健所、福祉事務所などとのつながりも生活の支援で必要な場面が多々あるわけです。

したがってACTを立ち上げ、運営していくためには、ACT自体を地域の人々にわかっていただく必要があります。どのような考え方で支援をしようとしているのか、どういう人々を対象としているのか、具体的にはどのようなサービスを提供するのか、などのことを当初から地域社会のキーパーソンの人々にお伝えしていくのです。そのような準備を通じて、ACTは地域社会の一員として育っていくことができるのです。



COLUMN さまざまな研修の機会を活用するには

ACTを実践していくには、さまざまな知識や技能が必要です。たとえば、「リカバリー概念の理解」「利用者の方の長所や能力を見出し伸ばしていく、ストレングス・モデル」「幻聴や妄想などに悩まされている人々の支援に役立つ認知行動療法」「資源を活用するためのケースマネジメント」「家族支援の技能」などです。これらを集中的に学ぶ機会は、まだ少ないのが現状ですが、ACTを実践している人々で作っているACT全国ネットワーク（巻末申込書参照）では、年に1回全国研修会（カンファレンス）を開催し、技術向上の機会を提供しています。

また、NPO法人地域精神保健福祉機構（コンボ）のACT-IPSセンター（32頁参照）では普及啓発のための講演会や立ち上げ支援の事業をしています。

国立精神・神経医療研究センター社会復帰研究部でもACTの研修や、アウトリーチサービスの研修を開催しています。ご興味をお持ちの方はぜひお問い合わせください。

国立精神・神経医療研究センター社会復帰研究部 <http://www.ncnp.go.jp/nimh/fukki>



立ち上げ準備中 ACTチーム紹介 01

ACT-A（仮）

総合病院国保旭中央病院+訪問看護ステーション旭こころとくらしのケアセンター

所在地 〒289-2702 千葉県旭市横根3501番地 TEL:0479-57-2372

訪問範囲 千葉県海匝保健福祉圏域（旭市・匝瑳市・銚子市）

＝活動内容＝

中央病院飯岡診療所2階をオフィスにして、旭中央病院神経精神科内のコミュニティーケア実務グループと共同で、ACTの活動を始めました。訪問看護ステーション全体の登録利用者は約70名ですが、ACT利用者も13名（平成22年3月現在）ほどになりました。課題がたくさんありますが、利用者の方の役に立つサポートを目指してがんばっています。

立ち上げ準備中 ACTチーム紹介 02

ACT銚子

銚子訪問看護ステーションNEW

所在地 〒288-0071 千葉県銚子市植松町2149 TEL&FAX:0479-21-7431

訪問範囲 銚子市全域を予定（現在検討中）

＝活動内容＝

現在は訪問看護の活動をしながら、「ACTとは何か」や理念となるリカバリーなどについて、週1回、勉強会を実施しています。今後は、地域のクリニックとの連携や、看護師や医師だけではなく他の職種のスタッフに参加してもらうことなどを実施し、徐々にACTサービスの提供に向けて取り組んでいく予定です。

立ち上げ準備中 ACTチーム紹介 03

略称未定

さいたま市精神障害者家族会連絡会

所在地 未定

訪問範囲 未定

＝活動内容＝

家族や当事者のニーズに合うACTチームをさいたま市に作りたいと考え、市保健所、市障害福祉課、埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科の協力を得て、平成21年度末から会議開催や、KUINA（16頁参照）見学を実施しました。今年度はACTに関心を持ってもらうため、研修会を開催し、ACTに意欲的な機関・専門職の方々と出会うきっかけづくりをしています。



立ち上げ準備中 ACTチーム紹介 04

AOT（Assertive Outreach Team）

国立病院機構鳥取医療センター

所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876 TEL:0857-59-1111 FAX:0857-59-1589

訪問範囲 鳥取県東部地域で、鳥取医療センターから車で片道30分以内の地域

＝活動内容＝

現在は、スタッフ間で理念の共有や援助技術の研修などを行い、チームづくりを行いつつ、徐々に訪問件数を増やしています。専任のスタッフが少ないため、平日日中のみの活動を行っています。今後はさらなるスタッフの確保や、AOT活動内容の病院内への周知、並びに関連部署との連携をとっていきたいと思っています。

立ち上げ準備中 ACTチーム紹介 05

Q-ACT

Q-ACT 設立準備室

所在地 福岡県福岡市周辺を予定

訪問範囲 未定

＝活動内容＝

現在は、クリニック、訪問看護ステーションを設立するための準備段階にあります。中心メンバーによる定期的なミーティングを重ね、チームのコンセプトを決めたところです。スタッフも徐々に決まりつつあり、来年4月頃の開設をめどに準備をすすめています。

ACTのサービスを向上するために



ACTは、日本においては、まだ生まれたばかりのサービス・プログラムです。利用者の方が希望する社会生活を送れるように、質の高いサービスを目指し、ていねいに確実に育てていく必要があります。

質の悪いACTは医療による管理の道具となる危険性があります

もしACTがリカバリー(6頁参照)やストレングスモデル(29頁参照)という概念を理解せず、服薬の確認と症状を見ることだけに終始し、“具合が悪くなったら入院”という考え方のままで運営されていたら、それは医療による社会の囲い込みといった事態になります。また、「ACTが病院から訪問に来た」という姿は、ときに利用者の方に再入院への不安を感じさせるかもしれません。これでは、決して利用者の方のために役に立つ、質の高いACTにはなれません。

研修、品質評価など、ACTを育てるためのしくみが必要です

隔離や拘束とは別のあり方で利用者の方の精神的な健康を守ることを目指す、ACTの質を高めるには、研修(25頁参照)や、フィデリティ評価(11頁参照)などのしくみが有効です。このほかに、利用者の方やご家族などがサービスについて評価できるような機会も重要です。また、適正な収益が得られるような、診療報酬などの評価も欠かせません。ACTの質が高まり、“精神科病床はもっと少なくて良いのだ”という考えが広く理解されることは、意義深いことです。



ACTの実践に必要な技術と姿勢

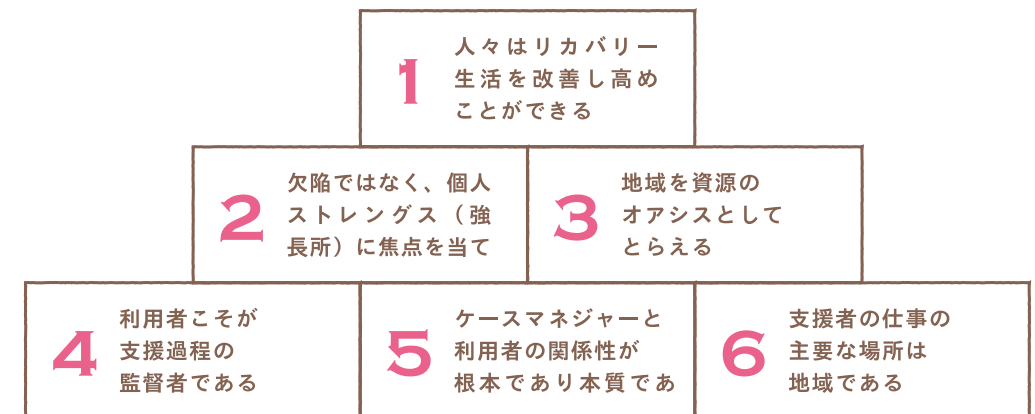
ACTのスタッフがサービスを行う時には、利用者の方が大事にしていることや望んでいることに関心をもち、それらをていねいに聞いていくことが大切となります。利用者の方を知るために「ストレングスモデル」が重要です。

ストレングス——利用者の方の強み・長所に注目する

6頁でもお伝えしましたが、「ストレングス」の意味は、「強み・長所」。その強みに注目した考え方＝「ストレングスモデル」では、疾患や障害に焦点を当てるではありません。利用者の方のストレングス、つまりその人の健康的な部分、可能性に着目します。その領域は、①人柄／個性、②才能や技能、③環境のストレングス、④興味／願望です。このモデルの基礎となっているのが、下図にあるように、「誰でもリカバリーできる」という信念や、「サービスを受ける過程で主導権を握るのは利用者の方自身である」という考え方です。

ストレングスモデルの原則

Ridgway (1999), Rapp&Goscha (2006) 一部改訂



アセスメントー ストレングスモデルに基づいて利用者の方を知ること

ストレングスモデルは、ただ単純に「できないところを見る必要はない」という考え方ではありません。利用者の方の疾患や苦手な部分、現在おかれている環境の課題などを考え、目標に向かって、その人のもつ潜在的な力や環境、援助関係から生まれる力に着目することが重要なのです。

ストレングスモデルに基づいて利用者の方をよく知ることが「アセスメント」と言います。アセスメントを行うためには、ACTのサービスを行うスタッフ側の一方的な解釈ではなく、利用者の方との対話を通して本人の語ったことばや視点を尊重しつつ、利用者の方が本来持っている長所や能力、そしてその人を取り巻く環境のストレングスに注目することが大切です。



ストレングスアセスメントシート		
利用者の名前	ケースマネージャーの名前	
現在のストレング 今の私のストレングスは何か？ (例: 才能、スキル、個人的／環境的ストレングス)	個人の希望・願望 何を希望するの？	資源：個人的、社会的 過去に私が利用したストレングスは何か？
日常生活状況		
経済／保険		
職業／教育		
社会的支援		



リカバリー目標ワークシート				
利用者の名前	ケースマネージャーの名前		日付	
一番心から願っていること				
実現に向けた達成可能な短期目標 (課題あるいは行動段階)	責任	達成期日	達成日	コメント

クライアントの署名	日付	ケースマネージャーの署名	日付
		その他の関係者の署名	日付



この過程の基礎となるのが、「リカバリーを実現していく」という同じ考えを持った利用者の方とACTのチームスタッフとの信頼関係です。また、利用者の方が何を経験し大切にしているのか、ということにスタッフが常に関心を持ち、学び続けるという姿勢です。これは、ACTの活動の中で、利用者の方の目標に向けてケースマネージャーがともに活動をしていく上で、非常に重要な視点・姿勢となります。

その具体的な方法として、以下のような用紙、「ストレングスアセスメントシート」と「リカバリー目標ワークシート」を使う方法があります。利用者の方の言葉をもとにできるだけ詳細かつ具体的に、強み・長所を「ストレングスアセスメントシート」に書きます。それを活用して、「リカバリー目標ワークシート」を作成します。これらの過程は利用者の方との共同作業で行われ、シートに沿って個別の支援が提供されます。



コンボ・ACT-IPS センター について

リカバリーの文化があたりまえになるよう、一人ひとりが自分の望む地域で安心して生活できる精神保健医療福祉の実現を目指し、就労支援のプログラムなどの普及活動をしているACT-IPSセンターについてご紹介します。

ACT-IPSセンターは、NPO法人地域精神保健福祉機構(コンボ)の中の一部門です。私たちは日本におけるACTやIPS*などの普及を通じて、地域生活中心の精神保健医療福祉の実現を目指し、活動を展開しています。これまで、研修会の開催や情報提供、コンサルティングなどを行ってきました。右頁の申込書で紹介されている、ACT全国ネットワークの事務局も担当しています。

*「IPS:Individual Placement and Support(個別就労支援プログラム)」とは、本人に「働きたい」という希望があれば就労は可能だという信念のもとに、一人ひとりの好みや長所に着目し、一般就労を目指して個別支援を提供するプログラムです。

私たちは、以下のミッション(使命)を持って活動をしています。

- 私たちは、コンシューマー(精神疾患の経験者)のリカバリーを実現する
伴奏者(伴走者)になることを活動の使命とする
- その一環として、コンシューマーの地域生活や希望の実現を目指すプログラムである、
ACTやIPSなどの普及啓発、教育・研修、モニタリングの活動を実施する

私たちの長期&短期目標は、以下の通りです。

〔長期目標〕

- リカバリーの文化が精神保健の領域であたりまえのものとなる

〔短期目標〕

- 精神保健の専門家、家族、当事者がACTやIPSに関して知る
- ACTやIPSが地域の中で実践され、成果をあげる
- 精神保健医療福祉の施策の中にACTやIPSが取り入れられる

上記の目標を達成するために、研修会や講演会などの機会を通じて、多くの方々とのつながりを構築し、大切にしていきたいと思います。



全国にACTの普及を！ ご協力いただける方をお待ちしております

「ACT全国ネットワーク」入会申込書

ACT全国ネットワークでは、ACTや地域生活中心の精神保健医療福祉における臨床実践や研究、システムづくりに関心を持ち、本ネットワークの目的に賛同していただける方のご参加をお待ちしております。精神保健医療福祉の専門家、当事者、家族、一般市民を問いません。ぜひ全国へのACTの普及にご協力ください。

申込日：平成 年 月 日	
右記会員として入会を申し込みます ☐ 正会員（年会費4,000円）	
フリガナ	
お名前	
連絡先 (〒)	
TEL	FAX
E-MAIL	
ご所属	職種

このページをコピーし必要事項をご記入の上、事務局まで郵送かFAX、メールにてお送りください。
会費につきましては、以下の口座にお振込みいただくと幸いです。

【会費振込先】

銀行名：みずほ銀行 本八幡支店
口座名義：ACT全国ネットワーク
口座番号：(普)1167417

【入会申込書送付先・お問合せ先】

ACT全国ネットワーク 事務局
〒272-0031千葉県市川市平田3-5-1 トノックスビル2F
NPO法人地域精神保健福祉機構(コンボ)
ACT-IPSセンター内(担当：久永・香田)
TEL:047-320-3873 / FAX:047-320-3871
E-mail: ai@comhbo.net